

伝染病

■犬ジステンパー

成犬になっても感染するが、特に抵抗力の弱い子犬が感染しやすく、症状も重くなる。

主に、ウイルスを持っている犬の便や尿などから接触感染する。

症状は、高熱が数日感続き、食欲不振、目ヤニ、咳、鼻汁などがたくさん出る。

また、消化器官などが冒されると、嘔吐や下痢も重なる。放置しておくと脳の中樞神経が冒され、7割以上の確率で死亡する。また、治っても神経障害が残ることがある。

■犬伝染性肝炎

劇症型は突然血を吐き、子犬は半日～2日ほどで死亡してしまうケースもある。

■犬アデノウイルス2型感染症

合併症で重症化する。

■犬パルボウイルス感染症

病気の進行が早いのが特徴。感染経路は、犬の排泄物や分泌物からの接触感染が主だが、人間の靴裏などに付着して家庭に持ち込まれる事で感染する場合もある。

症状は、出血性の嘔吐や悪臭を伴った血液が混ざる下痢など。また脱水症状による衰弱なども激しく、子犬などの場合には数時間で死亡するケースもある。

■犬パラインフルエンザ

抵抗力の弱い子犬や栄養状態の悪い犬が比較的かかりやすい病気といわれる。

症状は風邪によく似ており、咳が続いたり、微熱や鼻水が出たり、吐き気、結膜炎、口の中の粘膜の充血などが見られる。

■犬コロナウイルス感染症

腸炎。単独では重症化しないが、混合感染すると死亡率が高くなる。

■犬レプトスピラ感染症

数種類もある「レプトスピラ」という細菌による感染症。液体中に長期間生息する細菌で、水たまりや池などで感染する。

高熱、嘔吐、血便、下痢などを起こし、また目ヤニや黄疸などが出る場合がある。

終生抗体はできないので通常1年に1回混合ワクチンの注射を打って予防する。

